

なせばなる

第7章

上杉鷹山は何をしたのか？

米沢藩
15万石

食べる物がなく、草を食べていた。
子供を生んでも育てられず、墮胎、
老人を野山に捨てた、
膨大な借金。

コンセプト

現在、日本は不況に苦しんでいます！それによって企業では倒産やリストラが増加し、社会では自殺、犯罪、教育の荒廃など、連鎖的に社会的問題が増加しています。そこで、私達の住む米沢が、米沢藩の時代に多く借金を抱え、苦しんでいた時、名君として誉れ高い上杉鷹山公が、「米沢藩をどのように改革し、立て直したのか」ということにヒントがあるのではないかと思い調べることになりました。そして、今の日本の社会情勢が米沢藩の状況に酷似していることに気づき、現代にその知恵を生かされないかと考え、さまざまな視点から考察してみました。21世紀を迎え、人と人、人と物という視点を再度考え直し、人が苦しまずに暮らせる社会ができるにはどのようなしたら良いのかと思い、私達は「なせばなる」の精神で不況を乗り切るための提案を考えました。



伝国の辞

- ・国家は先祖から子孫へ伝えられるもので決して私するものでないこと。
- ・人民は国家に属するもので決して私してはならないこと。
- ・国家（藩）人民（藩民）のために立ちた君（藩主）であって君のために人民があるのではないこと。

精神的な教え

三助

- ・自らを助ける「自助」
- ・互いに助け合う「互助」
- ・最後に藩が助ける「扶助」

五人組・十人組

孤老、孤児、障害者を入れ、互いに助け合うことを命じた。

虚礼廃止

衣服は本綿、食事は一汁一菜
贈答品の禁止、奥女中の削減

形としての教え

学校建設

藩校：興譲館

籍田の礼

- ・家中たちのボランティアでの大規模な開墾事業。
- ・役人よる村の巡回。
- ・夜業開墾
- ・優秀な人材は登用。

改革分析表

様々な改革を調べ、なぜ成功・失敗したのか参考にした。

産業発展

- ・殖産興業→働く場所のなくなった老人に別の養分を勧める。
- ・農作物作りに力を入れる。
- ・節約することを奨励し実行した。

なせばなる

第2章

不況となった日本を考える

日本が不況となった問題点のアンケート調査

解答のあった主な理由

失業者の増加→就職難
株の下落、需要供給が釣り合っていない→経済が不安定
無駄な公共事業が多い→税金が高い
物が溢れ便利になった
→物を大事にせず、すぐ捨てる社会
次々に新しい商品が出来るため満足できない
→ブームに流されやすい国民性
時代の流れ→急速な変化に対応できない
利益至上主義→海外生産の増加
縦社会の崩れ→人間関係の崩壊
脱税が多い、汚職が多い→犯罪の増加

米沢藩と現代との比較

- 手続きに時間がかかる (2つ共通：形式主義)
昔：政府の決定には、重役と相談しなければならない。彼等は作法を重んじた。
今：お金をもらう時など、市役所での手続きが分かりにくく、面倒。
- 信頼関係が薄い
昔：上下関係がはっきりしている (上の人を下の人を見下しているから)
今：信用があるべき人の犯罪が起きているから。
- 将来に希望を持ってない
昔・今：目標や目的がない。
- 改革の失敗
昔・今：改革が押しつけたものばかり。非協力的な人がある。
- 人に対する「優しさ」がない
昔：厳しすぎる年貢の取り立て。
今：心にゆとりがない。ストレスのたまり過ぎ。
- 学校がない
昔：勉強を教える学校がない。
今：心を育てる学校がない。
- お金の無駄遣い
昔：豪華すぎる大名行列。
今：国会議員や公務員の給料及び外交費や公共事業費など。

改革のキーワード

モノ

者物 (教育)
(産業)

存せばなる

第3章

提案1～合衆国化（機能的な日本）～

關山公の時代、「5人組」や「10人組」を作り、人々が協力し合ったことに習い、日本をいくつかの地方に分けてみることにしました。自分達の地方の発展を目指し、その土地に合った政治、法律や産業、教育を考えれば、それぞれの地方が豊かになり、それは、日本全体の豊かさにつながると思います。よって私達は「日本の合衆国化」を提案します。

日本の合衆国化



8つの州による合衆国

政治、経済
産業、教育

国外→日本として
国内→州として

提案2～者（教育）をいかに実現するのか～

不況を乗り切るためには、他人任せにするのではなく、私達国民が変わらなければならないと思います。それには、まず人（者）づくりが必要です。そのためには、学校の教育を変えなければなりません。そこで、私達はどのようにしたら「人を育て、つくる教育」が出来るのかを考えました。

各州における教育システム

自らを助ける 『自助』
互いに助け合う 『互助』
最後に国（州）が助ける 『扶助』

↓ どんな教育？

「人と人の教育」



幼稚園
小学校
中学校

★高齢者との会話
目的：心の教育
内容：人として生きた中での経験を高齢者と、話しをすることで、自らを助け互いに助け合う精神を考える。

「人と物の教育」

高校
大学

★インターンシップ
目的：実社会での勉強
内容：実社会で、「者」と「物」との関係を目で見て、耳で聞いて、肌で感じ、各種専門分野で自分自信の将来を考えさせる教育。

「人を支える教育」



大学院

★他分野における研究
目的：州もしくは、国で働ける優秀な人材育成
内容：自分が研究している分野において、実社会で仕事をし、社会の常識を知りながら、新たな人間関係を築き、州もしくは国で、指導者として働くことができる教育。

なせばなる

第4章

提案3～物（産業）をいかに実現するのか～

現在、日本は賃金の安い外国で製品を製造し、輸入している現状があると思います。それによって国内での雇用の悪化が進み、景気の回復が危ぶまれるのではないのでしょうか。そこで、失業者のいない日本、活力ある日本にするための提案を考えました。

県単位の取り組み

県民の目安箱設置

幅広い人からの意見

県単位で、県を活性化するために必要な事業や企業について県民の意見を聞いて設立する。

↓
多様な企業の設立

失業者のない社会

企業の公共化

企業を県単位で経営して、その人の持っている能力に合った企業に就職させる。

↓
生活保証

産業改革は
地方から

東北州

特徴ある市場経済化

国内市場の活性化

県単位で生産された商品を、州で調整し、各州より国へ持ち寄り、国内の市場をコントロールしていく。

産業競争は
州単位で

新しい商品開発

日本国

海外へ

ジャパニーズブランド

国内製品のブランド化
生産されたものはすべて同一ブランドにして海外へ輸出する。

まとめ

今、日本は大きな岐路にたっていると思います。政治や経済を立て直すことができなければ、これからの日本は今以上に社会問題が発生し、崩壊してしまいます。これ以上の悪化を防ぐには、人として原点に戻り上杉謙山公の時代に行っていた「三助」の精神を持つことによって、心にゆとりが生まれ、明るい未来を想像できる社会が生まれるのではないのでしょうか。「なせばなる」の精神で失敗を恐れず、前進することが私達の課題です。